

〈論文〉

## 地元産広葉樹用材の流通と価格 (Ⅱ) 滋賀・兵庫県, 京都府について

大北英太郎<sup>※</sup>・中山哲之助<sup>※</sup>

### The Market Structure and Pricing Process of Saw Timber of Locally Produced Broad Leaved Trees (Ⅱ) In Cases of Siga, Hyogo and Kyoto Prefectures

Eitaro OHKITA<sup>※</sup> and Tetsunosuke NAKAYAMA<sup>※</sup>

#### Summary

We surveyed the distribution of the saw timber of broad-leaved trees produced in Nara, Wakayama, Siga, Kyoto and Hyogo prefectures in order to clarify the market structure and the price formation in 1982~1983 year. The characteristics of the distribution can be summarized as follows:

(1) The national forest is the principal source of high grade logs of hardwoods supplied.

(2) The hardwood logs are produced by log-producers or chip-producers supplying logs as a side job.

(3) The large and high grade logs of the fancy wood class produced and assorted mainly by log-producers are in circulation through the business organizations of acution market for logs.

(4) The logs below the middle grade in quality are assorted to some extent roughly into two groups (first group: logs for chip; second group: logs for sawn timber which are divided into many groups for each species) at the timber yard of cutting site by the log-producers (or by chip-producers supplying logs as a side job), and the logs for sawn timber are sold to the special lumbermen in each producing district of hardwoods. They are sawn for various uses, and the sawn timber are sold to the makers of various products. The assorted logs for chip are either sold to some chip-producers or carried in by the chip-producer himself for chip-producing when he produced the logs.

(5) Next the chip-producers assort carefully the logs which they purchased or produced into two groups (logs for chip and logs for sawn timber) at the wood yard of their chip-mills in order to raise their gross sales amount, to

---

※ 鳥取大学農学部林学科林業経済学研究室 : *Laboratory of Forest Economics, Department of Forestry,  
Faculty of Agriculture, Tottori University*

be exact, their business income.

But, in the circumstances, the degree of this assortment is frequently modified according to the contract with the pulp-manufacturing company to supply logs for chip.

(6) The logs of Keyaki (*Zelkova serrate* MAKINO) have better wood grain, wood quality, wood color, etc. than other species, so the logs of Keyaki are useful for various purposes, although the logs of Keyaki are comparatively small in quantity. Accordingly the prices of them are generally very high.

Anyway, we think that Keyaki is the most useful of all species in broad-leaved trees.

## I はじめに

地元産広葉樹用材の流通と価格動向について、われわれは1982年に奈良・和歌山両県について、1983年に滋賀・兵庫県、京都府について調査を行った。奈良・和歌山県についての概要はさきに報告<sup>1)</sup>したので、本稿では滋賀・兵庫県、京都府についてその概要を述べる。

この調査は文部省科学研究費補助金(総合研究A)によったものである。調査にさいし御協力をいただいた行政機関・業界など関係の方々に厚く謝意を表する。

## II 広葉樹の現況

### 1. 広葉樹資源の現況

滋賀・兵庫県、京都府における広葉樹資源の現況は表1、表2のとおりである。すなわち、表1にみるように広葉樹林の面積は、兵庫県が22万ha、京都府14万5千ha、滋賀県8万6千ha程で、その殆どが天然林で、又大部分が民有林である。しかし、用材としての資源量をみるため、表2の61年生以上の樹齢について、国有林面積のしめる比率をみると、兵庫県、京都府、滋賀県がそれぞれ41%、5%、20%をしめ、兵庫県は国有林の比率も大きい。

表1 広葉樹資源の現況

単位(面積:ha, 蓄積:1000m<sup>3</sup>)

県別 国・民有別	滋 賀 県						京 都 府						兵 庫 県					
	国有林		民有林		計		国有林		民有林		計		国有林		民有林		計	
	面積	蓄積	面積	蓄積	面積	蓄積	面積	蓄積	面積	蓄積	面積	蓄積	面積	蓄積	面積	蓄積	面積	蓄積
人工林	222	14	90	2	312	16	176	3	6	0	182	3	1,026	80	1,787	131	2,813	211
天然林	8,471	351	77,820	3,953	86,291	4,304	1,669	79	143,155	11,382	144,824	11,461	5,421	531	211,994	13,933	217,415	14,464
(A) 計	8,693	365	77,910	3,955	86,603	4,320	1,845	82	143,161	11,382	145,006	11,464	6,447	611	213,781	14,064	220,228	14,675
(B) 立木地	18,872	904	188,236	15,632	207,108	16,536	11,848	282	332,208	40,345	344,056	40,626	31,441	2,296	545,121	50,847	576,562	53,144
(A) (B)×100%	46.1	40.4	41.4	25.3	41.8	26.1	15.6	29.1	43.1	28.2	42.2	28.2	20.5	26.6	39.2	27.7	38.2	27.6
ha 当たり蓄積	42		51		50		44		80		79		95		66		67	

注: 1980年世界農林業センサス林業調査報告書

表 2-1) 広葉樹面積の齢級構成

(単位: ha)

齢		級		計	～ 20 年生	21～40年生	41～60年生	61年生以上
滋	計	人工林	総 数	312 (100)	44 ( 14)	170 ( 55)	85 ( 27)	13 ( 4)
			くぬぎ・ならぶ	15 (100)	1 ( 7)	—	14 ( 93)	—
		その他広	296 (100)	43 ( 15)	170 ( 57)	70 ( 24)	13 ( 4)	
		天然林	総 数	86,291 (100)	24,443 ( 28)	43,981 ( 51)	15,771 ( 18)	2,096 ( 3)
	くぬぎ・ならぶ		946 (100)	293 ( 31)	389 ( 41)	235 ( 25)	29 ( 3)	
	その他広		299 (100)	8 ( 3)	125 ( 42)	162 ( 54)	4 ( 1)	
賀	国	人工林	総 数	222 (100)	13 ( 6)	115 ( 52)	83 ( 37)	11 ( 5)
			くぬぎ・ならぶ	14 (100)	—	—	14 (100)	—
		その他広	207 (100)	13 ( 6)	115 ( 56)	68 ( 33)	11 ( 5)	
		天然林	総 数	8,471 (100)	2,499 ( 29)	2,870 ( 34)	2,683 ( 32)	419 ( 5)
	くぬぎ・ならぶ		474 (100)	22 ( 5)	201 ( 42)	222 ( 47)	29 ( 6)	
	その他広		246 (100)	4 ( 2)	112 ( 45)	130 ( 53)	—	
県	民	人工林	総 数	90 (100)	31 ( 35)	55 ( 61)	2 ( 2)	2 ( 2)
			くぬぎ・ならぶ	1 (100)	1 (100)	—	—	—
		その他広	89 (100)	30 ( 34)	55 ( 62)	2 ( 2)	2 ( 2)	
		天然林	総 数	77,820 (100)	21,944 ( 28)	41,111 ( 53)	13,088 ( 17)	1,677 ( 2)
	くぬぎ・ならぶ		472 (100)	271 ( 57)	188 ( 40)	13 ( 3)	—	
	その他広		53 (100)	4 ( 8)	13 ( 24)	32 ( 60)	4 ( 8)	
府	民	人工林	総 数	77,295 (100)	21,669 ( 28)	40,910 ( 53)	13,043 ( 17)	1,673 ( 2)
			くぬぎ・ならぶ	—	—	—	—	—
		その他広	—	—	—	—	—	
		天然林	総 数	77,295 (100)	21,669 ( 28)	40,910 ( 53)	13,043 ( 17)	1,673 ( 2)
	くぬぎ・ならぶ		—	—	—	—	—	
	その他広		—	—	—	—	—	

注: 1) 1980年世界農林業センサス林業調査報告書による。

2) ( )内は比率

表 2-2) 広葉樹面積の齢級構成

(単位: ha)

齢		級		計	～ 20 年生	21～40年生	41～60年生	61年生以上
京	計	人工林	総 数	182 (100)	22 ( 12)	30 ( 16)	123 ( 68)	7 ( 4)
			くぬぎ・ならぶ	—	—	—	—	—
		その他広	182 (100)	22 ( 12)	30 ( 16)	123 ( 68)	7 ( 4)	
		天然林	総 数	144,824 (100)	19,384 ( 13)	89,534 ( 62)	31,625 ( 22)	4,281 ( 3)
	くぬぎ・ならぶ		92 (100)	12 ( 13)	9 ( 10)	59 ( 64)	12 ( 13)	
	その他広		21 (100)	—	—	19 ( 90)	2 ( 10)	
都	国	人工林	総 数	144,711 (100)	19,372 ( 13)	89,525 ( 62)	31,547 ( 22)	4,267 ( 3)
			くぬぎ・ならぶ	176 (100)	19 ( 11)	28 ( 16)	122 ( 69)	7 ( 4)
		その他広	176 (100)	19 ( 11)	28 ( 16)	122 ( 69)	7 ( 4)	
		天然林	総 数	1,669 (100)	168 ( 10)	184 ( 11)	1,119 ( 67)	198 ( 12)
	くぬぎ・ならぶ		92 (100)	12 ( 13)	9 ( 10)	59 ( 64)	12 ( 13)	
	その他広		21 (100)	—	—	19 ( 90)	2 ( 10)	
府	民	人工林	総 数	1,556 (100)	156 ( 10)	175 ( 11)	1,041 ( 67)	184 ( 12)
			くぬぎ・ならぶ	6 (100)	3 ( 50)	2 ( 33)	1 ( 17)	—
		その他広	6 (100)	3 ( 50)	2 ( 33)	1 ( 17)	—	
		天然林	総 数	143,155 (100)	19,216 ( 14)	89,350 ( 62)	30,506 ( 21)	4,083 ( 3)
	くぬぎ・ならぶ		—	—	—	—	—	
	その他広		—	—	—	—	—	

注: 1) 1980年世界農林業センサス林業調査報告書による。

2) ( )内は比率

表 2 - (3) 広葉樹面積の年齢構成

(単位 : ha)

年齢		級	計	～ 20 年生	21～40年生	41～60年生	61年生以上	
兵 庫 県	計	人工林	総 数	2,813 (100)	1,033 ( 37)	1,344 ( 48)	389 ( 14)	47 ( 1)
		くぬぎ・なら	581 (100)	264 ( 45)	308 ( 53)	6 ( 1)	3 ( 1)	
		ぶ な	4 (100)	—	—	4 (100)	—	
	その他広	2,228 (100)	769 ( 35)	1,036 ( 46)	379 ( 17)	44 ( 2)		
	天然林	総 数	217,415 (100)	52,122 ( 24)	139,547 ( 64)	20,042 ( 9)	5,704 ( 3)	
		くぬぎ・なら	12,702 (100)	7,580 ( 60)	4,659 ( 37)	419 ( 3)	44 ( 0)	
ぶ な		1,084 (100)	61 ( 6)	4 ( 0)	41 ( 4)	978 ( 90)		
その他広	203,629 (100)	44,481 ( 22)	134,884 ( 66)	19,582 ( 10)	4,682 ( 2)			
国 有 林	人工林	総 数	1,026 (100)	131 ( 13)	498 ( 48)	365 ( 36)	32 ( 3)	
		くぬぎ・なら	10 (100)	—	7 ( 70)	2 ( 20)	1 ( 10)	
		ぶ な	4 (100)	—	—	4 (100)	—	
	その他広	1,012 (100)	131 ( 13)	491 ( 49)	359 ( 35)	31 ( 3)		
	天然林	総 数	5,421 (100)	833 ( 16)	1,419 ( 26)	831 ( 15)	2,338 ( 43)	
		くぬぎ・なら	63 (100)	12 ( 19)	35 ( 56)	10 ( 16)	6 ( 9)	
ぶ な		1,079 (100)	61 ( 6)	4 ( 0)	36 ( 3)	978 ( 91)		
その他広	4,279 (100)	760 ( 18)	1,380 ( 32)	785 ( 18)	1,354 ( 32)			
民 有 林	人工林	総 数	1,787 (100)	902 ( 51)	846 ( 47)	24 ( 1)	15 ( 1)	
		くぬぎ・なら	571 (100)	264 ( 46)	301 ( 53)	4 ( 1)	2 ( 0)	
		ぶ な	—	—	—	—	—	
	その他広	1,216 (100)	638 ( 52)	545 ( 45)	20 ( 2)	13 ( 1)		
	天然林	総 数	211,994 (100)	51,289 ( 24)	138,128 ( 65)	19,211 ( 9)	3,366 ( 2)	
		くぬぎ・なら	12,639 (100)	7,568 ( 60)	4,624 ( 37)	409 ( 3)	38 ( 0)	
ぶ な		5 (100)	—	—	5 (100)	—		
その他広	199,350 (100)	43,721 ( 22)	133,504 ( 67)	18,797 ( 9)	3,328 ( 2)			

注 : 1) 1980年世界農林業センサス林業調査報告書による。

2) ( ) 内は比率

### 2. 広葉樹素材の年次別生産量の推移

木材需給報告書<sup>2)</sup>によると、広葉樹素材の年次別生産量は図1のとおりで、兵庫県は昭和49年に、京都府・滋賀県は昭和39年に最大値を示し、以後減少傾向に転じている。特に京都府は昭和38～42年頃までは兵庫県より多い生産量であったが、年次を追って急激に減少している。

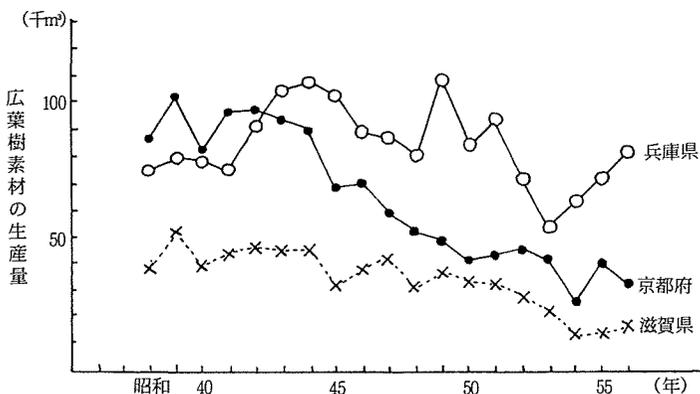


図 1 広葉樹素材生産量の年次別推移

### 3. 広葉樹の製材用素材入荷量および工場数の年次別推移

木材需給報告書<sup>2)</sup>によると、広葉樹を扱う製材工場への広葉樹素材の入荷量および1工場当たり入荷量の年次別推移は図2のとおりである。

滋賀県における製材工場への入荷量の年次別推移は、昭和44年の10千 $m^3$ を最大として、以下下降を続け、昭和57年には5千 $m^3$ となっている。工場数も昭和38年には77工場であったが、昭和57年には66工場に減少している。

これを1工場当たりの年次別入荷量の推移でみると、昭和41年には最大の227 $m^3$ を示し、以後は下降を続けて昭和48年には23 $m^3$ の最低を示したが、以後、若干増加傾向に転じ、昭和57年には76 $m^3$ となっている。

また、京都府における製材工場への入荷量は、昭和44年の25千 $m^3$ を最大として、以後下降を続け昭和57年には6千 $m^3$ まで減少している。工場数は昭和38年113工場あったが、昭和57年には27工場に減少している。これを1工場当たりの年次別入荷量の推移でみると、昭和44年には最大の347 $m^3$ を示し、以後は下降を続けて昭和57年には222 $m^3$ となっている。

さらに、兵庫県における製材工場への入荷量は、昭和38年の62千 $m^3$ を最大として以後下降を続け、昭和57年には10千 $m^3$ となっている。

工場数は昭和38年には141工場あったが、以後減少し昭和57年には57工場となっている。これ

を1工場当たりの年次別入荷量の推移でみると、昭和41年の495 $m^3$ を最大として、以後下降を続け、昭和56年には一時的に500 $m^3$ を示すが、昭和57年には175 $m^3$ に減少している。

以下、概括してみると滋賀・兵庫両県、京都府の1府2県における地元産広葉樹林の資源並びに生産量は、全般的にかなりの減少傾向を示し、製材工場もこれに対応して減少している。

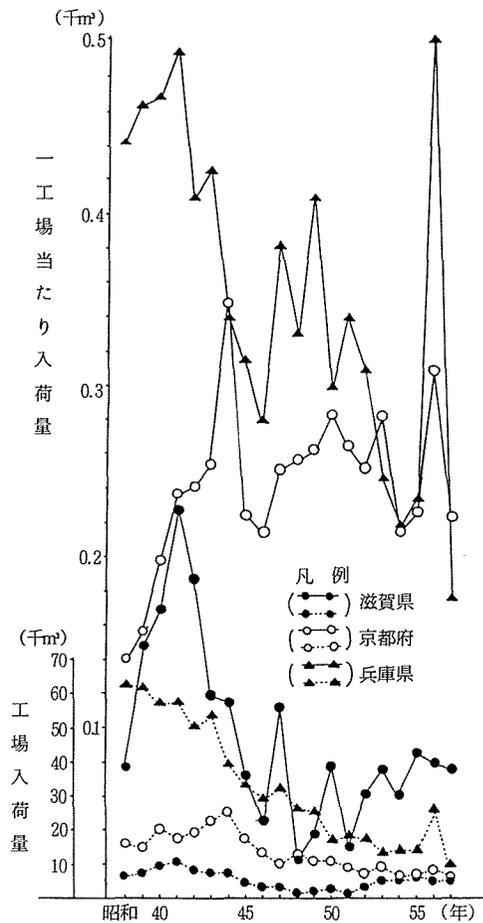


図2 広葉樹製材用素材の工場入荷量

### Ⅲ 広葉樹用材の流通状況

#### 1. 国有林材の販売流通状況

当該府県における国有林材の販売状況を営林署別の「立木処分」と「素材販売」についてみると、最近3ヶ年の樹種別数量は表3、4のとおりで樹種別には総合してナラ・ブナがもっとも多く、クリ・ミズメ・ケヤキがこれについている。

素材販売は、これを行っているのは山崎営林署のみであるが、樹種別にはブナ・ナラ・ミズメ・トチノキ・クリ・ケヤキ等が多く、立木処分と同様の性格である。

表 3 国有林樹種別立木処分量

(単位：m³)

樹種	大 津			京 都			神 戸			山 崎			計		
	54	55	56	54	55	56	54	55	56	54	55	56	54	55	56
ブナ				463	51					87	137	88	550	188	88
カシ								2						2	
ナラ	136	411	161	671	338	208	21	15	20	5	51	27	833	815	416
ケヤキ				2	10	7				65	13	6	67	23	13
クリ						184									184
サクラ						1									1
ミズメ						79									79
ホオノキ					2	4								2	4
トチノキ						10									10
クス						4									4
センノキ										1			1		
その他L	829	1,040	597	2,368	2,113	959	54	571	91	541	388	437	3,792	4,112	2,084
計	965	1,451	758	3,504	2,514	1,456	75	588	111	699	589	558	5,243	5,142	2,883

注：大阪営林局利用課資料による。

表 4 国有林樹種別素材販売量

(単位：m³)

樹種	山 崎			樹種	山 崎			樹種	山 崎		
	54	55	56		54	55	56		54	55	56
ブナ	39	8	90	サクラ	1	1	21	シデ			55
ナラ	115	24	111	ミズメ	20	17	215	低質材	296	216	796
ケヤキ	28	19	15	ホオノキ	1	8	38	その他L	118	31	112
カツラ	7		3	トチノキ	74	30	97				
センノキ			1	カエデ	16	1	20				
クリ	44	10	48	シオジ	15			計	774	365	1,622

注：大阪営林局利用課資料による。

表 5 国有林立木購入業者

営 林 署 別	年 度	製 材 業 者 %	素材生産流通業者 %	そ の 他 業 種 %	処 分 数 量 m³
大 津	S 54		64.3	35.7	965
	55		88.9	11.1	1,451
	56	2.0	73.8	24.2	758
京 都	54		60.9	39.1	3,504
	55		17.6	82.4	2,514
	56		99.2	0.8	1,456
神 戸	54		11.2	88.8	75
	55		71.9	28.1	588
	56	19.8	-	80.2	111
山 崎	54	0.1	83.7	16.2	699
	55	14.0	81.2	4.8	589
	56	9.5	89.1	1.4	558

注：大阪営林局利用課資料による。

表6 国有林素材購入業者

営林署別	年度	製材業者 %	チップ業者 %	素材生産流通業者 %	処分数量 m <sup>3</sup>
山 崎	S 54	39.1	1.6	59.3	774
	55	63.0	—	37.0	365
	56	85.8	2.3	11.9	1,622

注：大阪営林局利用課資料による。

これら「立木」, 「素材」の購入業者は表5, 表6のとおりである。

表5, 表6の「素材生産流通業者」という用語は, 素材生産業者から原木問屋までの素材生産流通を担う業者を一括した国有林の用語であるが, この素材生産流通業者が立木購入業者のなかではもっとも多く, 製材業者がこれについている。素材購入業者は, 昭和54年度は素材生産流通業者がもっとも多く製材業者がこれについているが, 55・56年度は製材業者がもっとも多く, 56年度は9割弱をしめている。

## 2. 民有林材の販売流通状況

民有林は, 国有林に比べて里山の性格が強く, 広葉樹材は小径木が多い。

広葉樹の小径材は, 一般にはチップ材・椎茸原木として流通するが, その他にシデはシャトル・時計の台枠・玉のれんなどの木工品材料に, カシはカンナ台, ナラは柄木材料, クリは建築土台角に, ケヤキは表札材料, 書院建築材料, イチョウはマナ板材料, ゴツ広葉樹は梱包材料として流通し, 各地に存在する広葉樹材専門の製材工場がこれらの小径材を半加工品に製材している。したがって, 素材生産業者は現地の土場で広葉樹小径木の第1次仕分けをおこない, 広葉樹材専門の製材工場へ直接出荷している場合が多い。しかし, 素材生産業者の一部には, 針葉樹材と広葉樹材とを込みで原木市売会社, 或いはチップ会社の土場へ出荷する業者もあり, この場合は持込み土場で仕分けがおこなわれる。

広葉樹材専門の製材工場で加工される半加工製材品は, それぞれの各製品メーカーへ出荷されているが, これは兵庫県内では三木市・小野市を中心とする地域で家内工業的に製造されている刃物の柄木及びカンナ台・玉のれんが多く, 大阪府の泉佐野市・福井県の武生市では紡績関係へのシャトル, 岐阜県の時計メーカーへの時計枠などの木工品材料, 兵庫県の尼崎市を中心とする集荷業者へのパレット, 鉄鋼関係への梱包材(万棒など)等が中心となっている。

素材生産業者或いはチップ業者により現地土場で仕分けされる広葉樹用材のうちで, ケヤキなどの銘木級の原木は主として岐阜の広葉樹専門の銘木市売会社へ出荷されるが, それ以外の用材は, ケヤキ・クリの大部分は各地方の原木市売会社へ出荷され, これを地元の製材業者が購入し, ケヤキは建築用床板, 書院建築材料などに, クリは建築用土台材料に製材され, 建築業者又は工務店などへ販売されている。

製材業者の一部には, ケヤキなどを原木で他の市売会社へ転売する場合もある。

ケヤキは, 広葉樹用材の中で木目・材質・材色などが他樹種に比べ特色を持ち, 代替樹種がみられないため, 材価も高い。

以上の流通性格から, われわれは滋賀・京都・兵庫の1府2県において, チップ業者6, 製材業者9, 素材生産業者1, 加工業者2, 仲買業者1, 原木市売会社6, 計25ヶ所について仕入れおよび販売などについての調査をおこなった。その概要は表7のとおりである。

表7 広葉樹用材の流通状況

業種	業者名	位置	年間取扱量	仕入	販売
チップ業者	R木材KK	滋賀県 坂田郡	20,000 t (26,000m <sup>3</sup> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>立木購入10%・素材業者70%</li> <li>原木市場20%, 針葉樹材50%</li> <li>広葉樹材50%</li> <li>広葉樹用材は素材業者が仕分け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チップはD製紙へ</li> <li>用材は岐阜の市売会社へ出荷(ケヤキ)</li> </ul>
〃	Y林業	滋賀県 伊香郡	12,500m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手山60%・一般購入40%・手山の内訳は用材20%(枕木8%・用材12%)チップ材80%</li> <li>手山は年7,500m<sup>3</sup>の生産</li> <li>小規模素材業者はYで仕分け</li> <li>京大芦生演習林から立木1,000m<sup>3</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チップはO製紙へ</li> <li>用材は岐阜の原木市場へ出荷</li> <li>ブナは高山へ</li> </ul>
原木市売会	S県森連共販所	滋賀県 長浜市	5,000m <sup>3</sup> のうち広葉樹100m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スギ・ヒノキと一緒にケヤキを素材業者が出荷</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>買付は地元製材業者</li> <li>ケヤキでm<sup>3</sup>当たり60万円以上は原木で岐阜へ出荷</li> </ul>
〃	S林業	〃	7,700m <sup>3</sup> のうち広葉樹1,500m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広葉樹は主にケヤキ・クリ</li> <li>立木購入20%・素材業者80%</li> <li>価値のあるケヤキは単独、価値の低いケヤキは針葉樹材と一緒に</li> <li>S業者は他に静岡の島田・滋賀の栗東町に市場を持つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケヤキ・クリは地元製材業兼建築業者が買付</li> <li>銘木級60cm以上は岐阜へ(ツキ板用)</li> </ul>
製材業者	T製材	〃	278~557m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立木買付33%・原木市場67%(地元S林業・共販岐阜銘木市場%)</li> <li>購入するケヤキは1~2等材(50~60万円が最高)</li> <li>ケヤキは製品市場から10%原木で90%を購入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己消費50%・他業者へ50%</li> <li>製材したケヤキは地元業者へ販売</li> <li>原木を他原木市場へ(ケヤキ)</li> </ul>
〃	N材木店	〃		<ul style="list-style-type: none"> <li>原木市場(地元S林業・共販・福井の嶺北市場)で大部分購入</li> <li>量的にはケヤキは5% 建築材料</li> <li>最近ケヤキは製品で購入(銘木店より)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在庫のものを大工へ販売</li> </ul>
チップ業者	M町森林組合	京都府 北桑田郡	8,500m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>森林組合生産50%・管内素材業者35%・管外15%(他森林組合50%・業者50%)</li> <li>森組生産の内2~3%は用材</li> <li>現地土場で仕分け シデはチップ工場土場で仕分け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チップはK製紙へ</li> <li>40~50m<sup>3</sup>の用材を岐阜へ</li> <li>一部地元の木工へ販売</li> <li>シデ年間50m<sup>3</sup>を木工業者へ販売</li> </ul>
製材業者(広葉樹材)専門業者	T製作所	京都府 福知山市	946m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>素材業者(兵庫県北部 京都府北部)より仕入れ(カシ342m<sup>3</sup> シデ・ホノノキ・クヌギで604m<sup>3</sup>)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カシの半製品(カンナ台)で三木・小野のカンナ製造業者へ1/2</li> <li>シデの半製品(シャトル)で武生市の北陸合同KK・泉佐野市の合同シャトルKK1/2</li> <li>柄木・木管の半製品で姫路名古屋・京都の業者へ1/2</li> </ul>
原木市売会	T木材市場W支店	兵庫県 朝来郡	30,000m <sup>3</sup> のうち広葉樹1,200~1,300m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケヤキ・クリで取扱量の5~6% ケヤキが大部分</li> <li>クリは小径木</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケヤキは購入者は名古屋のツキ板業者の仲買人・地元のK製材</li> </ul>
〃	H県森連共販所	兵庫県 養父郡	15,000m <sup>3</sup> のうち広葉樹800m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>15森林組合の持込</li> <li>針葉樹と広葉樹と一緒にの持込50%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>40%はチップ業者買付 60%は製材業者三木・小野・加西の木工業者の仲買業者(10社)</li> </ul>

業 種	業者名	位 置	年間取引量	仕 入	販 売
原木市売会	Y 木材市場	兵庫 県 兵 庫 市	35,000 m <sup>3</sup> のうち広葉樹1,800 m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1,800 m<sup>3</sup>のうちケヤキ60% クリ・ホオノキ・シデ等40%</li> <li>○ 針葉樹と広葉樹と一緒に出荷市場で選別仕分け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ケヤキは地元のK製材(建築用) ザツ用材はS木材(パレット用)製材業者が大部分で転材業者10軒</li> <li>○ チップ材はS・M・I林業</li> </ul>
"	T 木材市場	兵庫 県 兵 庫 市	20,000 m <sup>3</sup> のうち広葉樹1,500~2,000 m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ケヤキは70~80%、他はシデ・ナラ・ホオノキ・カシ・ブナ・トチノキ</li> <li>○ 針葉樹と広葉樹と一緒に持込</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 買付は製材業者・ツサ板業者・銘木業者(岐阜)・広葉樹専門業者</li> </ul>
チップ業者	Oチップ	兵庫 県 兵 庫 市	6,000 m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 素材業者・森林組合からチップ材のみ購入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ チップはK製紙へ(尼崎の集荷所)</li> <li>○ 大径木はS木材へ</li> </ul>
製材業者(広葉樹材)専門業者	S 木材	"	8,400 m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手山10%・原木市場30%・素材業者60%(但馬・丹波・丹後)</li> <li>○ 素材業者は仕分けして来る場合と込で持込む業者とあり、S木材でも仕分けする</li> <li>○ チップ材50% 用材50%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 半製品は万棒(鉄鋼関係)パレット70%、クリは土台角・枕木10%</li> <li>○ ケヤキは建築材・木工関係</li> <li>○ シデはシャトル10%</li> <li>○ 原木出荷500~600 m<sup>3</sup>(木管材料)</li> <li>○ イチョウ100 m<sup>3</sup>マナ板業者へ</li> </ul>
"	H 木材	兵庫 県 兵 庫 市	ケヤキ 100 m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ケヤキ・クリを原木市場から購入し全部製材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ケヤキ製材品は地元建築業者へ</li> <li>○ クリの土台も同じ</li> </ul>
チップ業者	S.M.I.工場	兵庫 県 兵 庫 市	12,000 m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 素材業者 小口の業者</li> <li>○ 集荷範囲(京都の丹後 香住 福知山)</li> <li>○ 現場で仕分け</li> <li>○ 小口業者持込は工場仕分け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ チップはO製紙米子工場へ</li> <li>○ シデは { 福知山の製材業者(シャトル用) 10m<sup>3</sup> ケヤキ小径木はツキ板仲買業者・三木・小野の木工業者・N山林(時計の枠)</li> </ul>
製材業者	H 製材	兵庫 県 兵 庫 市	ケヤキ 10 m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ケヤキ・クリ原木市場 製材</li> <li>○ クリは製品で購入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 建築の書院材料(ケヤキ)として 工務店・大工へ販売</li> <li>○ 張物業者・表札業者へ(ケヤキ小径木)建具屋</li> </ul>
素材生産者	N 山林	"	針 1,500~2,000 m <sup>3</sup> 広 800 m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 所有面積1,800 ha(針葉樹林65%・広葉樹林35%)の自己素材生産</li> <li>○ シデ14~18cm S木材より購入</li> <li>○ 広葉樹林は伐期50年で皆伐し萌芽更新施業(毎年5 ha以下)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ パルプ材60% シデは時計枠20% S木材5% 原木市場15% 玉のれん少量</li> <li>○ シデ径20cm以上はS木材へ</li> </ul>
製材業者	K 製材	"	3,000~3,600 m <sup>3</sup> のうち広葉樹150~180 m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広葉樹は5% 原木市場から購入</li> <li>○ 50%は加工し2~3年在庫</li> <li>○ 50%は転売</li> <li>○ クリも購入(原木市場から)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 建築業者へ</li> <li>○ 50%は他の原木市場へ</li> </ul>
チップ業者	H 林業	兵庫 県 兵 庫 市	24,000 t (31,000 m <sup>3</sup> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一般の人<sup>1/2</sup> 專業業者<sup>3/2</sup></li> <li>○ 樹種別では針葉樹<sup>1/2</sup> 広葉樹<sup>3/2</sup></li> <li>○ 素材業者は現地で仕分け</li> <li>○ 工場での仕分けは手間がかかるのでしていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ チップは各製紙会社へ</li> </ul>
製材業者(広葉樹材)専門業者	O 製材	兵庫 県 兵 庫 市	2,000 m <sup>3</sup> のうち広葉樹1,500 m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 管林署の素材入札25%・素材業者25%・S.M.50%</li> <li>○ ブナ・ナラ70% ザツ30%</li> <li>○ 原木市場購入は10%もない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ブナは木工材・家具脚物用へ山崎町のT林業へ ナラは小野の柄木・三木の玉のれん ザツは新日鉄の梱包材・万棒(ダンネージ)へ出荷 クリは製材し建築業者へ チップはS.M.へ出荷</li> </ul>

業 種	業者名	位 置	年間取扱量	仕 入	販 売
加工業者 (木 珠)	I 業者	兵 庫 県 小 野 市	年間 100 m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○チップ工場からの原木買付</li> <li>○地元製材工場へ委託し小割にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○荒珠に加工し天日乾燥</li> <li>○協同組合へ出荷</li> </ul>
製材業者	O 製材	〃	針 500 m <sup>3</sup> 広 500 m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○針葉樹材は建築材に製材</li> <li>○広葉樹材は柄木、玉珠用の小割</li> <li>○広葉樹材の1/3は賃挽き</li> <li>○素材業者、チップ業者から広葉樹原木を仕入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三木市の業者へ柄木の小割</li> <li>○小野市の業者へ玉珠の小割</li> </ul>
加工業者	N 木工	兵 庫 県 三 木 市		<ul style="list-style-type: none"> <li>○木曽ヒノキ、外材の紅松を仕入れ</li> <li>○コテの柄木加工</li> <li>○ケヤキで表札加工</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○柄木の製品販売</li> <li>○表札の製品販売</li> </ul>
仲買業者	K 木材	京 都 府 福 知 山 市	300 m <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小野市、三木市、加古川市の木工業者からの受注</li> <li>○イタヤカエデ、ホオノキ、ブナが大部分</li> <li>○北海道、東北の製材業者へ発注</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○販売先は小野市、三木市、加古川市の業者は10軒である。</li> <li>○その外、木工業者2～3軒</li> <li>○仲買業である。</li> </ul>

以上の業種の流通担当者を類別してその特色を述べれば次のとおりである。

#### A. 素材生産業者

##### (イ) 専 業 者

広葉樹材の用途別販売先を持ち、現地の山元土場で集約な1次仕分けをおこなって出荷する。

##### (ロ) 兼 業 者 ( 零 細 業 者 )

針葉樹材と広葉樹材とを込みで原木市売会社或いはチップ業者の土場へ持ち込む。

#### B. チップ業者

##### (イ) チップ生産専業者

製紙会社のチップ材生産枠の増減によって土場での仕分けの量を調整し、必要チップ量をこえるものを用材として出荷する。

##### (ロ) 用材生産兼業者

素材生産専業者と同様に現地の山元土場で集約な1次仕分けをおこない、チップ材集積土場で2次の仕分けもおこなう。

#### C. 原木付売問屋

##### (イ) 付売問屋専業者

銘木級広葉樹原木を銘木市場への出荷し、或いはそこでの購入を行う。又受注によって委託製材して販売も行う。

##### (ロ) 素材生産兼業者

素材生産専業者と同様に現地の山元土場で集約な1次的仕分けをおこなう。

#### D. 産地製材業者

##### (イ) 製材専業者

原木市場、素材生産業者、チップ生産業者から購入した原木は、2次の仕分けをおこなって価

値を高め、用途別受注によって製材品を出荷する。

(ロ) 素材生産兼業者

素材生産専業者と同様に現地の山元土場で集約な1次的仕分けをおこない、用途別受注によって製材品を出荷する。

(イ) 建築兼業者

原木市場或いは売材業者から原木(特にケヤキが多い)を購入し、製材して床板、書院建築材料一式等の製品を作り、注文に応じて販売する。場合によって製品仕入れをおこなうこともある。

E. 原木市売会社

(イ) 広葉樹材専門の浜業者

銘木級の広葉樹材を取扱う。

(ロ) 針葉樹材兼業者

土場で広葉樹材の仕分けをおこない販売する。

以上の業者による流通の経路を図示すれば

図3のとおりである。

なお、兵庫県を中心とする特産工業産地における広葉樹材の流通・加工について、より具体的に述べれば次のとおりである。

兵庫県の三木市及び小野市を中心として発達した地方産業としての家庭刃物生産の歴史は古く、三木金物(利器工匠具)と称される刃物産地として知られ、特に小野市を中心として生産されている播州鎌は、全国生産量の80%を占めている。企業の業態は典型的な家内工業で、「兵庫県の特産工業<sup>3)</sup>」(昭和54年発行)によれば、企業数172(従業員数262人)、生産数量510万丁で、広葉樹用材はこの柄木としての需要が多い。また、この地域は、伝統的工艺品としての播州算盤、木珠工艺品の産地としても有名であり、この生産も家内工業として行われているが、この原材料入手状況は、表8、表9のとおりである。

この地域の播州算盤及び木珠の製造は、図4、図5のような協同組合組織のもとに算盤及び玉のれんの間屋が中心となって行われている。

算盤或いは玉のれんの木珠についての原材

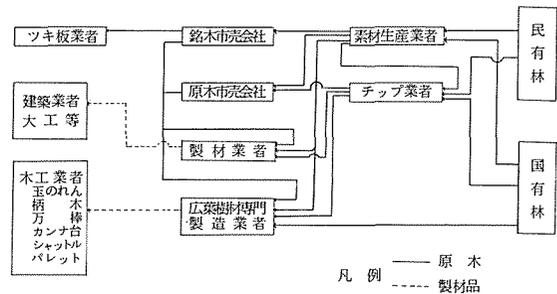


図3 広葉樹用材の流通経路略図

表8 算盤の原材料入手状況 (数量単位トン)

原材料名	地名	県内	県外	輸入	計
( 枠材料 )	いす、かし	0	100	1,500	1,600
	黒檀類				
( 主材料 )	かば、黒檀	0	1,800	100	1,900
( ひご材料 )	竹	0	4,000 <sup>東</sup>	0	4,000 <sup>東</sup>

注：兵庫県の特産工業(昭和54年)による。

表9 木珠の原材料入手状況 (数量単位トン)

地名	原材料名	福良木	プラスチック玉	杉	ラワン	その他
県内		1,250	0	0	0	0
県外		1,250	1,200	600	0	500
フィリピン		0	0	0	700	0
ボルネオ						
計		2,500	1,200	600	700	500

注：兵庫県の特産工業(昭和54年)による。

料のうち、国産広葉樹材については、広葉樹材専門の製材工場からの半加工製材品の買付け以外に、地元で6軒程ある専門の原木買付業者から仕入れられる。原木集荷地域の主体は兵庫県内であるが、その範囲は東は福井県から西は広島県までであって、素材生産業者が山元土場で第1次仕分けを行った原木及びチップ工場の土場で第2次仕分けを行った原木を買付けている。チップ材の集荷範囲は100~150kmまでの範囲と言われ、チップ工場土場で第2次仕分けは、製紙会社のチップ購入枠の増減によってその仕分け量も調整されると言う。樹種はシデ・ケヤキ・サクラソヨゴなどであり、トラック(3~4t車)1台分の原木量を取引単位としている。

算盤製造業者及び木珠製造業者は原木買付業者から仕入れた原木を、地元製材業者(例えば前述のO製材業者)へ賃挽き(m<sup>3</sup>当たり10,052~10,770円)で委託して小割材に加工し、その小割材を木珠製造業者が荒珠に加工し、天日乾燥した後にそれぞれの協同組合へ出荷する。また、地元製材業者はチップ工場から直接原木を仕入れ、小割材にして刃物業者などへ販売もしている。

近年、原材料の不足から刃物関係のカンナ台、鑿の柄木用のカシは宮崎県の延岡方面からイチイガシを仕入れ、他の柄木材料としてオノオレカンバ・ブナ・イタヤカエデ・ホノノキなどを北海道、東北地方から小割材或いは柄木製品として仕入れているが、これには仲買業者(例えばK業者)などが介在している。

又、兵庫県内のマッチ製造業は、姫路市を中心として発達し、兵庫県が全国のほとんどを生産するようになったが、その企業の地域別分布状況<sup>3)</sup>は表10のとおりである。その主要材料の軸木用原木・軸木の入手状況<sup>3)</sup>は表11のとおりで、輸入材もあるが東北・近畿地方から仕入れられたものが図6のような工程で生産が行われ、チップ工場の土場で仕分けられた原木も軸木用として調達されている。

近年、使い捨てライターの普及等により生産の大きな伸びは期待できないが、広告用マッチ等の一定の需要があり、このための軸木用原木の確保は必要とされている。

又、兵庫県内の家具・木工品としては、いわゆる「神戸家具」「竹田家具」「山崎木工品」の産地

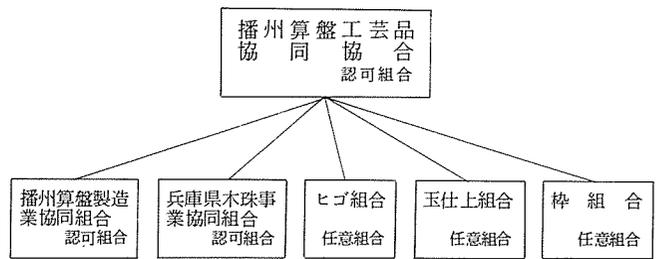


図4 算盤及び木珠の組合組織

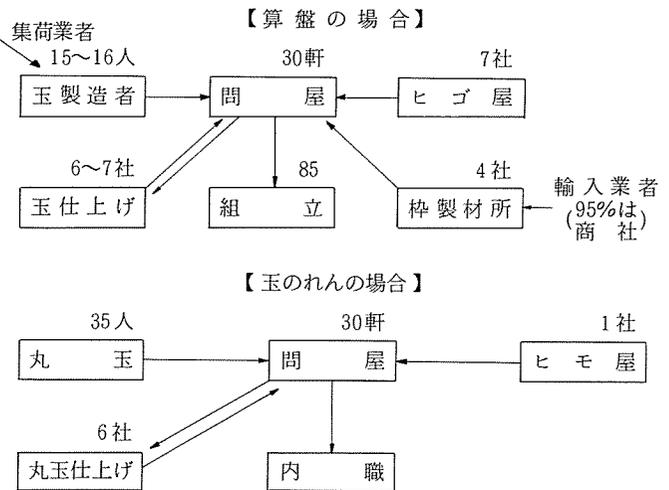


図5 算盤及び玉のれんの製造組織

表 10 企業の地域別分布状況

地域 区分	姫路市	淡路島	明石市	高砂市	神戸市他	計
企業数	28	1	9	2	5	45
従業員数	1,273	117	153	165	191	1,899
生産数量 (マッチトン)	221,224	27,916	28,160	37,712	35,553	350,565
生産金額 (百万円)	7,086	851	891	1,214	1,134	11,182

表 11 主要原材料入手状況

地名 原材料名( )内単位	輸入材	東北	中部	近畿	計
軸 木 (m³)	25,181	-	-	-	25,181
軸 木 (俵)	4,240	166,912	-	119,910	291,060
塩素酸カリウム (トン)	-	-	1,402	-	1,402
パラフィン (トン)	-	-	477	925	1,402

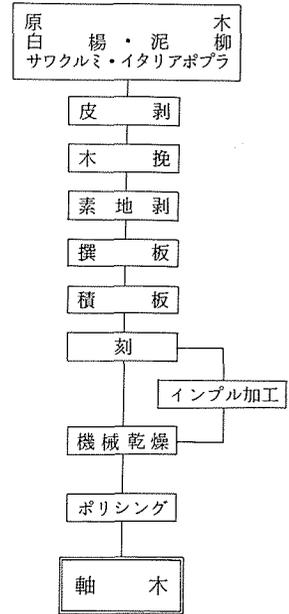


図 6 軸木の工程

として有名であり、一般洋家具、木ヒール等の製品を生産している。企業数は昭和52年次の統計<sup>3)</sup>では、「神戸家具」で93、「竹田家具」で15、「山崎木工品」で12となっている。家具の場合は、外材、合板等の主要原材料とともに地元産広葉樹材も使用されているが、その入手状況は表12のとおりである。何れの場合も生産工程では、適寸製材、乾燥、木取が行われている。

表 12 主要原材料入手状況  
(神戸家具)

地名 原材料名	神戸	大阪	計
ジョンコン材 ラウン材	22,300	9,655	31,955 石
桜 檜 塩 地	8,999	0	8,999 石
合 板	1,501,038	96,496	1,597,533 板
メラミン プリント等	75,051	0	75,051 板

(竹田家具)

地名 原材料名	姫路	府中	地元	計
化粧合板	20,800	17,800	0	38,600 枚
生合板	117,000	0	23,500	140,500 枚
小割物	4,500	0	1,150	5,650 石
桐板	242,500	0	57,400	299,900 枚

(山崎木工品)

地名 原材料名	郡内	県内	県外	計
原材料	25,000	30,000	16,000	71,000 m³
合板	0	105	100	205 万枚
塗料	2	6	2	10 万缶

### Ⅳ 広葉樹用材の価格

広葉樹用材の価格を国有林用材の標準的な価格（兵庫ブロック）でみると、図7のとおりである。既に報告<sup>1)</sup>した紀和ブロック、紀伊ブロックとも同様に、ケヤキがもっとも高く、次いでクリ・ミズメ・サクラ・カエデ・トチノキの順序であり、ナラ・ブナは低い。

山崎営林署の昭和54～56年度の素材販売価格の実績をみると、図8のとおりで、ケヤキ・ミズメ・クリ・トチノキなどが高く、ナラ・ブナなどは低い。

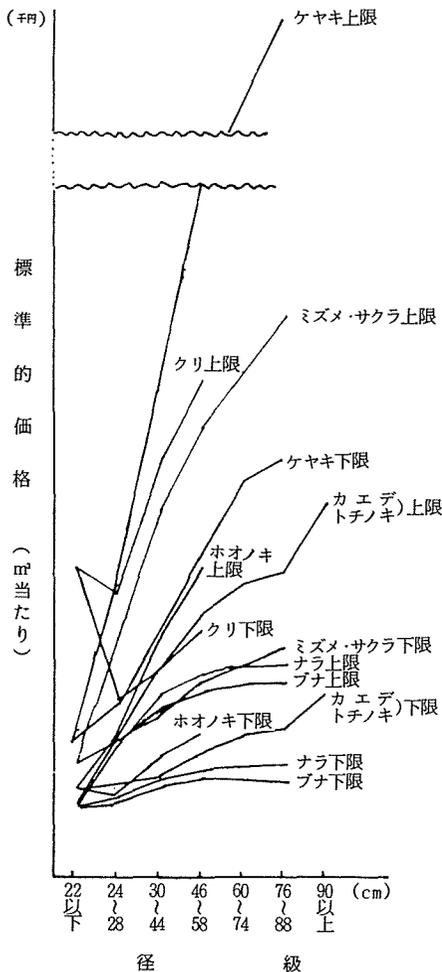


図7 国有林の広葉樹材樹種別上・下限別標準的価格範囲（兵庫ブロック）

(注) 1. 上・下限は材の等級による価格の上・下限である。  
 2. 価格は未公表のため相対的性格のみを示した。

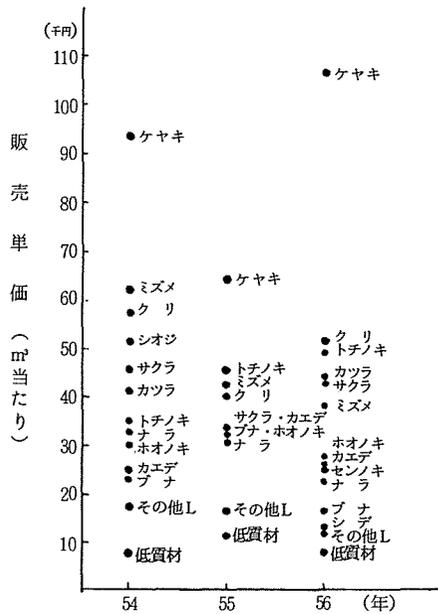


図8 山崎営林署の樹種別素材販売価格

滋賀・京都・兵庫の1府2県における民間での広葉樹用材の樹種別取引価格（ $m^2$ あたり単価）は聞き取り調査によると表13のとおりで民有林での広葉樹用材の価格は、国有林に比して広葉樹小径材が多いが、これもケヤキ・クリ・カシなどが高く、特殊な樹種としてイチショウも高い。なお、広葉樹材の価格形成に関係の深い代替の外材は、ブナの代替に南洋材のラミン、ミズメ・サクラの代替にアフリカ材のモアビ、クリの代替にイタジイ、ケヤキの一部にアフリカ材のブビンガなどが使用されている。

表13 民有林の樹種別単価

(単位：万円/m³)

樹種	規格	M森組	T製作所	H共販	Y市場	S木材	T市場	Sチップ	N山林	O製材
ケヤキ		6~7		2~100		2m2.5		16cm <sup>上</sup> <sub>2</sub>		
ミズメ・サクラ		2~4		3		2				
クリ	込	5~6		6~7	4	5~7				
	ℓ=4m								6~7	
	ℓ=3m								4~5	1.3~3.6
	ℓ=2m								3	
ブナ		2~3		2~2.2		2.5	尺上2.5			
シデ	込	1.3~1.5	1.8~2.15	2~2.5	2	2.5	2m <sup>上</sup> 1.7~1.8			
	径30cm上							3		
	径14~26cm							1.8~2.2		
	径16cm							1.6~1.7		
カシ	径4~5.5寸		2.7							
	径6~7.5寸		3.23							
	径8~9.5寸		3.77							
	径尺上		4.5							
トチノキ				3~10	5					
ホオノキ				2.2~2.3	1.7	2.5	2~2.5			
ナラ・クヌギ						2				
イチョウ						2~30				

## V おわりに

昭和57~58年度の2ケ年間にわたって調査した、奈良・和歌山・滋賀・京都・兵庫の1府4県についての地元産広葉樹用材の流通と価格の実態は、次のようにその特徴を要約しえよう。

- (1) 広葉樹優良用材供給の中心は国有林である。
- (2) 広葉樹用材は主として素材生産業者、チップ業者によってその生産が行われる。
- (3) 広葉樹用材のうち、銘木級の優良材は素材業者によって出材のなかから選別され原木市売会社を通じて流通している。
- (4) 広葉樹用材の小径材は、素材生産業者・チップ業者によって山元土場で仕分けがなされ、広葉樹材専門の産地製材業者へ出荷され、用途に応じた製材がおこなわれて、各製造品メーカーへ販売されている。
- (5) チップ業者は、購入素材の価格を高めるため、工場土場でチップ材、用材の仕分けをおこなうが、チップ生産量は製紙会社と契約した数量の確保が前提とされる。
- (6) 一般的にケヤキは木目・材質・材色などが他樹種を抜く特色を持ち、用途も広いが、生産量は比較的少ないので材価は極めて高くなっている。有用樹種の最たるものと思われる。

文 献

- 1) 大北英太郎・中山哲之助：地元産広葉樹用材の流通と価格（I），奈良・和歌山県について。鳥大農演報，**14**，29～42（1984）
- 2) 農林水産省統計情報部編：木材需給報告書（昭和38～57年）。農林統計協会
- 3) 兵庫県商工部工業課：兵庫県の特産工業。pp. 1～239（1979）
- 4) 兵庫県中小企業総合指導所：木珠工芸品産地診断報告書。pp. 1～85（1978）
- 5) 播州算盤事業協同組合：活路開拓調査指導事業報告書。pp. 1～52（1982）